

第1回意見交換会でいただいたご質問への回答

第1部：分野別の取組事例

	ご質問・コメント	ご回答内容
1	<p>三宅町さんの事例では、地理的な好条件とまちの規模感をうまく施策に乗せていると感じました。企業とパートナーシップを組むための手法を詳しくお聞きしたかったです。</p>	<p>(三宅町より回答)</p> <p>三宅町では、株式会社官民連携研究所と包括協定を締結しており、自治体と協働で事業を検討されている企業や団体のご紹介をいただいております。その際、具体的な実証実験などの取組内容について、ヒアリングを行い、当町の課題解決に寄与するかどうかを検討し、実施の可否を決めています。</p> <p>課題解決にあたり効果が得られると考えられるサービスについては、実証実験を行い、その効果を確認してから事業として導入し継続しています。</p> <p>そのほか、課題に対してどのような取組ができるのか、省庁が発行している事例集や自治体通信などの官民連携を推進している事業者が発行する情報誌等から、当町が求める事業についてリサーチし、取り入れてみたいと思う企業に声をかけ、ヒアリングを行ったりしています。</p> <p>ただ連携協定を締結しているだけのパターンも多いかと思いますが、企業側として自治体とどんな取組をしていきたいのか具体的な内容が明確になっているかが重要な要素だと思います。</p> <p>あとは、自治体としてメリットがあるのかを判断すればいいのかと。</p> <p>企業が勝手にやってくれるという姿勢ではうまくいかないです。やはり、ある程度は自治体側もいっしょに汗をかく覚悟が必要だと思います。</p>
2	<p>三宅町における『子育てシェア』のより具体的な取り組み内容についてご教示いただきたくお願いします。</p>	<p>(三宅町より回答)</p> <p>初年度に総務省のシェアリングエコノミー推進交付金を受け実施していることから、報告書を提出しています。そちらをご参照下さい。</p> <p>●【参考1】三宅町：2020年度報告書</p>

第1回意見交換会でいただいたご質問への回答

第1部：分野別の取組事例

	ご質問・コメント	ご回答内容
3	<p>高松市さんの、NPOとの関係づくりから、協働につなげている事例をお聞きし、少子化対策のみならず、今後の様々な行政施策にあたって重要な視点であると感じました。</p> <p>民間団体等の活動は、住民にとっても近く、我々行政が担えない部分をカバーしてもらえる利点をうまく活かしていくための具体的な手法や事例をお聞きしたいと思いました。</p>	<p>(高松市より回答)</p> <p>本市においては、地域で活発な子育て支援活動を行う団体に恵まれ、行政の施策を自主的に学習し、団体間での情報共有や活動の底上げを図る風土が醸成されていたため、「たかまつ地域子育て支援コーディネート事業」を始め、各事業の円滑な立上げに繋がったものと思います。事業の立上げ後においても、情報共有会等の定期的な実施により、団体間や官民での顔の見える関係を構築し、事業の成果や課題の共有に努めています。</p> <p>また、本市職員や地域の関係者が各団体の活動や事業の現場に出向き、その取組を体験し、共感することが、事業の効果的な実施や見直しに繋がっていると思います。「中学生と乳幼児のふれあい事業」では、委託団体と実施学校の打合せ時から、本市職員やボランティアの学生等が参加し、事業の意義や効果を体感しています。</p> <p>この「ふれあい事業」の参加者の中には、過去に「ふれあい事業」を中学校で体験したことがある学生や、「ふれあい事業」への参加をきっかけに保育・教育職に進み、学校の担当職員として再び事業に参加される方もいて、事業を通じて地域と人の繋がりが循環が生じています。</p>
4	<p>高松市の資料3ページ「ポイント②子育て支援に理解のある企業風土」について、</p> <ul style="list-style-type: none">・どんな企業風土なのか、・表彰制度の具体的な内容、三宅町のような官民パートナーシップの取組の有無等についてお聞きしたいです。	<p>(高松市より回答)</p> <p>主に中小企業を対象とした子育て支援に関する表彰制度（別紙）を平成18年度から行っており、比較的早い時期から、市内の企業では子育て支援の必要性が認知され、法的な制度に関わらず、自主的な取組が展開されています。これを「子育て支援に理解のある企業風土」と表現しました。（現在は、この制度に代わり、女性活躍の視点で、「素敵なたかまつ 女性活躍企業等認定・表彰制度」となっています。）</p> <p>（参照：https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/gender/suishinshitsu/joseikatsuyaku/r3/ninteikigyau.html）</p> <p>また、上記表彰制度については、市内の中小企業等における次世代育成支援の取組を促進することを目的として、仕事と子育ての両立支援を図るための職場環境の整備に積極的に取り組んでいる中小企業等を表彰するものです。（現在は、新たに創設された女性活躍企業表彰・認定制度に包含されています。）</p> <p>官民パートナーシップの取組については、市内企業との包括協定に基づき、女性活躍促進等に係る連携事業を実施しています。</p> <p>●【参考2】高松市：H30子育て表彰中小企業等表彰募集チラシ</p>

第1回意見交換会でいただいたご質問への回答

第2部:「地域アプローチ」による取組の進め方

	ご質問・コメント	ご回答内容
5	<p>宮津市さんの発表をお聞きし、人口減少の構造や課題など、本市との共通点が多々あり、共感する部分が多かったです。地域アプローチにより洗い出された現状と課題を庁内での取り組みにどのように反映させていこうとされているのか、住民や地元企業に共有するための資料や、今後の展開としてお考えのところがあれば、今後の参考とさせていただくため、お聞きしたかったです。</p>	<p>(宮津市より回答)</p> <p>地域アプローチにより把握した課題について、短期的に取り組めるものについては、令和4年度当初予算に反映させ、現在、事業を実施している。</p> <p>また、今年度、地域アプローチの結果を活用し、安心して妊娠・出産・子育てができるまちづくりを進めるため、若者定住促進に向けた総合的な対策を庁内横断的に検討する予定としている。</p>
6	<p>企業誘致について主に製造業を中心に誘致に取り組んできたが、市民の希望は事務職（ハローワーク求人情報）で、政策とニーズにズレが生じている。宮津市の企業誘致の取組はどのように行っているか？</p>	<p>(宮津市より回答)</p> <p>本市においても、雇用数の確保や固定資産税の確保の観点からは、製造業の誘致が望ましいと感じているが、平坦地が少なく、工業団地もないことから、大型の工場等の誘致は難しい現状がある。</p> <p>そのため、特別名勝に本三景「天橋立」を望む年間300万人が訪れる北近畿最大の観光都市であること、水産研究施設の集積地であること等を活かし、1次・2次・3次のあらゆる産業が連携し、地域資源を最大限に活用した企業誘致を進めている。</p>